

# 調査報告概要表

作成日 2007年6月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入)4672900158
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホームあったかハウス東市来
所在地 (電話番号)	日置市東市来町長里880-15 (電話)099-274-7255
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年6月21日

## 【情報提供票より】19年4月25日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	13

### (2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	重量鉄骨 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	約10,000 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 30,000 円)	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	9 名	要介護4	3 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	ゆのもと記念病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR駅や幹線道路に近い住宅地に位置し、桃色のひときわ目立つ外観が特徴的である。温かみのある室内では、利用者が職員とともに触れ合う時間が多く、地域の人々と自然の中での暮らしを楽しんでいる。ケアに対する職員の意識も高く、記録物などの内容管理もしっかりしている。また、法人内の医療・福祉施設との連携もよく、利用者の状況や家族の希望により適切に対処していることから、家族の安心感も得ている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者の権利・義務について、入居契約書に追加明記している。水分摂取の個人記録や金銭出納帳の管理については、きちんと記録管理をしており、適切な整備となっている。緊急時のマニュアルも検討し、取り組みに努めている。また、課題に対する取り組みが迅速である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	行政担当者・地域の代表者・利用者家族等に対して状況報告と行事報告をするとともに、出席者から様々な意見・質問をだしてもらい、地域の協力体制の強化を図っている。討議内容は充実したもので、結果を活かした取り組みに努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会・意見箱・第三者委員の設置などがあるとともに、日頃から話してもらえる雰囲気づくりを心がけている。意見要望がある際は、職員全員で検討し対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目⑥	地元小学生の体験学習を受け入れたり、地域の方々をホームの行事に招待し昼食会を行ったりと、積極的に地域と関わっている。日常的にも、散歩や外気浴の際に声かけを行う等、意識的に交流している。

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の理念に加え、地域密着型サービスの果たすべき役割を盛り込んだ独自の理念を職員間で検討し、作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所理念を目につきやすい場所に掲示し、毎朝礼時に唱和して理念の実現に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに自治会長をはじめ地域の方々を招待し食事会をしたり、敬老会や誕生会等の行事にも招いている。また、子ども達へは体験学習の場として活用してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、自らのケアを振り返る契機となるように職員全員で取り組んでいる。外部評価の意義についても理解している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者・地域の代表者・利用者家族等の協力的な参加があり、定期的開催している。協議内容も充実しており、活発な会議を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議における連携はあるが、それ以上の関係づくりまでには至っておらず、徐々に図っていく予定である。	○	運営や現場の実情等を積極的に伝えるとともに、行事への出席呼びかけ等を通じて、協働関係を築いて欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等へは、毎月利用者別に写真を添付し、暮らしぶりを記入したお便りを送っており、金銭管理についての報告も適切である。家族会を年に1度開催し、運営者も参加している。	○	職員の異動等についての報告をしていないため、年に2回のホームたより発行の際や来所の機会に報告する等、家族と職員の関係性に対して配慮が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や第三者委員会の設置をするとともに、家族会のおりにも意見要望を確認している。日頃から、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員の異動や離職を出来るだけ避けるよう配慮している。やむを得ず異動や離職がある場合は、利用者へのダメージがないよう、また、同じケアが提供できるように全職員で取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の新人研修や全体研修を活用している。外部での研修は交代で参加し、ホーム内勉強会は月に一度行っており、研修記録も残している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと情報交換するとともに、職員同士の見学会を行う等、ケアサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学することから始め、馴染みの関係づくりに努め、利用者にはゆっくり慣れてもらえるよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の尊厳を守る努力をしながらともに過ごし、それぞれの特性を理解した上で支えあっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中で利用者の希望や意向を引き出すように努めている。また、家族からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人や家族の意見をもとに職員と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がなくても、1ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に見直しを行っており、記録もわかりやすく記述している。状態変化時には、その都度必ず職員全員で検討し、対応を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し通院支援や墓参り援助などの柔軟な対応はもとより、地域の方々との交流を通し、通える場としての機能を発揮している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者家族が希望するかかりつけ医となっている。法人内病院が24時間体制で支援をし、医師とも常に連絡が取れる状況を整えて医療連携にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針を明確にしており、「看取り介護についての同意書」や看取りに関する指針の作成がある。重度化に対応するべく、医療依存度の高いケアの職員研修も計画、実行している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を大事にし、ゆっくりゆったりと支援している。言葉遣いや対応については、全職員に周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、さりげない声かけを行っており、その日の状態に合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は能力に応じて行ってもらい、職員とともに行っている。利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話の中で食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を確認し、好みの入浴時間を受け入れ支援している。また、安全のために必ず見守りを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、洗濯物の整理やおしぼりたたみ等、楽しみごとを見出せるような場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や外気浴などを適宜支援しており、外出食事は半年に一度の割合で出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。外出したい様子が見られる利用者には、一緒に散歩をしてみわるなどの対応を心がけて安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の防火訓練のほか、昼だけでなく夜間を想定した避難訓練を行っている。	○	ホーム内だけでなく、地域の消防訓練にも参加し、緊急時は速やかに地域に協力を頂けるように働きかけをされた。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	人工透析をされている方もおり、全体として法人内の栄養士の指導のもと栄養管理をしている。食事及び水分摂取量を把握し、個別の記録を残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾等があり、玄関から居間にいたるまで家庭的でくつろげる空間となっている。和室もあり、好みの場所で心地よく過ごすことが出来ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品のほか、電化製品なども自由に持ち込んでおり、それぞれの大切な物品に囲まれて居心地良く暮らしている。		